

死を予言したケネディ切手

平 岩 道 夫(切手評論家)

このところイヤな事件があちこちで発生しているが、本号では、切手の世界でのケースを紹介してみよう。

1963年11月22日——この日は世界の英雄、アメ

リカのケネディ大統領がテキサス州ダラス市内をジャクリーヌ夫人、コナリー・テキサス州知事らと自動車で行進中、暗殺者の凶弾をうけ、この世を去った悲しい日である。

ところで、世にも不思議な“死を予言したケネディ切手”があるのを、ご存じだろうか？(写真①)

トゴでは、1962年7月4日にオリンピック大統領の訪米(同3月)を記念して、6種の切手と1種の小型シートを発行したが、この切手には、両国の大統領——つまりケネディ(左)とオリンピック(右)が描かれている。

ちょっと見たところ、なんのかわりもない記念切手だが、わずか1年半ばかりの間に起こった大事件のため、この切手はいちやく有名になってしまった。

まずオリンピック大統領は切手が発行された翌年の1月12日、アメリカ大使館前で、反乱軍により暗殺され、続いて10か月後の11月22日、こんどはケネディ大統領が暗殺されてしまったのである。



写真①



写真②

切手に描かれた両大統領の笑顔から、当時、だれが2人の“死”を予言できただろうか。偶然とはいえ、切手に描かれた2人の大統領が、そろいもそろって、暗殺者の手にかかって命をなくしたとは……。

▶ 話題をよんだハマーショルド追悼切手

さて、アメリカでは、世界平和のために貢献した元国連事務総長ハマーショルドを追悼して、1962年10月23日に4セントの切手を発行した。(写真②)

黒ワクの中を、黄色の地色でつぶした印面に、国連ビルを眺めている総長の像を褐色で描いた切手だが、うっかりバックを逆刷りにしてしまった。このエラー切手は、ニュージャージー州とオハイオ州の両郵便局から、400枚売り出されてしまったため、あつというまに1枚5,000ドルという法外な値段がついてしまった。

驚いた郵政当局は「希少価値を消すために、また数人の百万長者誕生を防ぐために」と刷り違えた切手を約1か月後に40万枚発売、1件落着とあいなった次第……。